

諏訪の景気動向

平成28年8月

(平成28年7月末 D・I調査)

平成28年8月30日

岡谷市郷田二丁目1番8号

諏訪信用金庫

諏訪地方の景気動向（平成 28 年 7 月末調査）

「平成 28 年 7 月末アンケート調査および企業訪問ヒアリング調査からまとめた諏訪地方の景況」

【概況】 諏訪地方 191 社のご協力を得て行った平成 28 年 7 月末の「景気動向調査(DI調査)」では、回答全社の「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは 6.3 となり、前回調査時(平成 28 年 4 月末、以下同)の△3.0 から、9.3 ポイント改善した。製造業の業況判断DIは△2.2 で、前回と同数値で、横ばいの状態で推移している。一方、非製造業(商業、観光・サービス業、建設業)の同DIは 25.8 で、前回の△5.0 から 30.8 ポイント改善した。例年同様の動きだが、本格的な行楽シーズンに入った観光・サービス業が、全体を押し上げている。「3ヶ月後」の業況予想DIは、製造業が 6.0(前回 1.4)と好転し、非製造業は 0.0 で前回の 8.3 より悪化し、回答全社では 4.2(前回 3.5)となっている。前回調査時の 4 月は円高、株安傾向の中で、熊本地震や軽自動車の燃費データ不正問題が発生し、諏訪地方の企業に動揺があった。さらにこの後、国内では消費増税率引き上げの再延長、海外では英国のEU離脱問題などがあり、市場が混乱し、先行き不透明感が深まった。

英国のEU離脱問題は、3ヶ月前、前年同期、3ヶ月後の予想のいずれかで、何らかの影響を感じている企業が見られた。回答全社の約 6.0%と少数だが、好転はなく、すべて悪化の回答だった。貿易による直接的な影響とともに、為替等への影響が懸念されている。

製造業の「3ヶ月前」と比べた受注状況DIは前回の 1.4 から△0.7 へ悪化し、収益性DIは前回の△9.9 から△12.1 へ悪化している。資金繰りDIも前回の△8.5 から△12.8 へ悪化した。「前年同期」との比較では、前回改善傾向だった業況判断DIが△20.3 と前回の△7.8 から悪化し、受注状況DIも△15.1 で前回の△8.5 から悪化した。収益性DIは△17.3 で前回の△17.7 と同水準だった。一方、「3ヶ月後」の予想DIは業況判断が 6.0 で、前回の 1.4 から好転し、受注状況も前回の 2.8 から 6.1、収益性は前回の△3.5 から△0.7 へ改善傾向となっている。地区内製造業は、取引先の状況によって業況に差が見られる。また、現在は好調でも最近の世界情勢などから、先行きに不安感を持つ企業が増えている。自動車関連は総体的に低調だが、一部で増産の動きがあり、技術力が高い企業に受注が集中する傾向となっている。

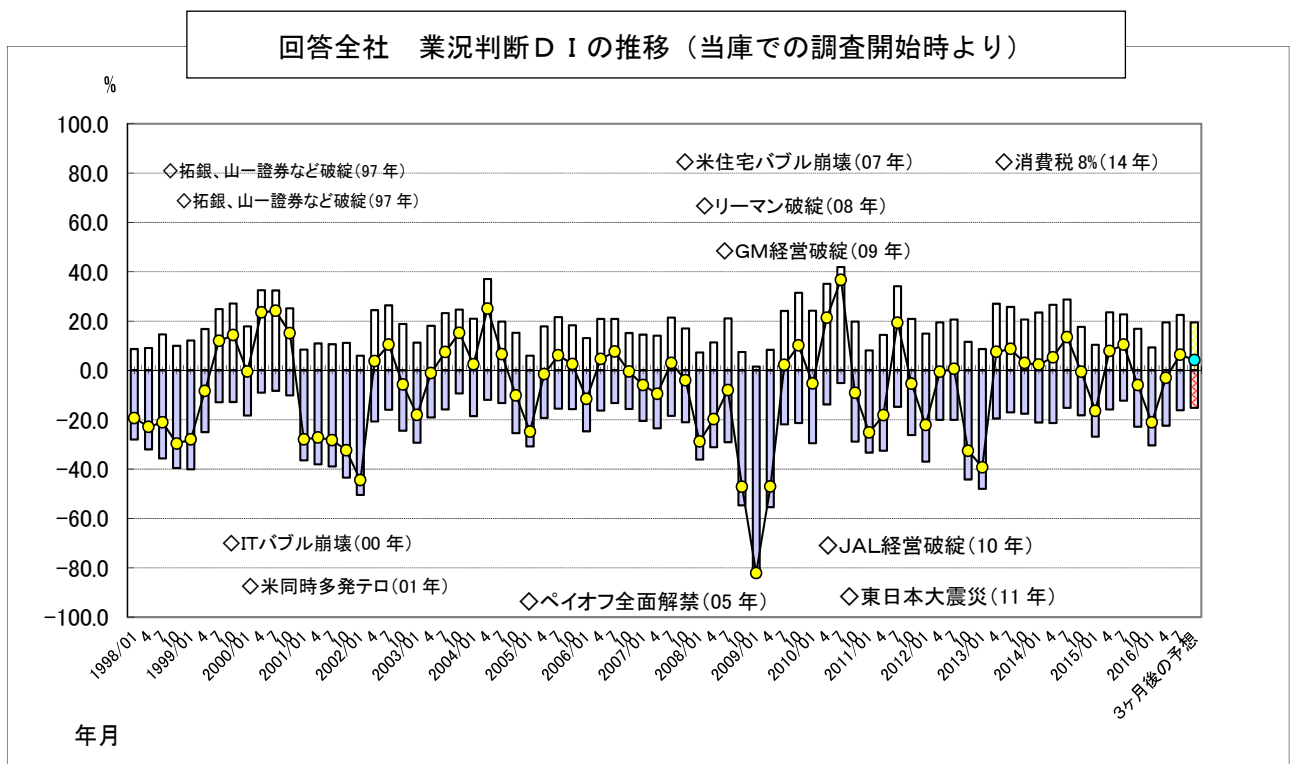
商業は、「3ヶ月前」と比べて業況判断DIが 14.2 で、前回の 3.4 から改善した。売上DIは 17.9 で前回の 17.3 とほぼ同水準だった。来客数DIは 3.5(前回 6.9)、客単価DIは 3.6(前回 20.7)で、前回より減少しているものの、好転企業が悪化企業を上回り、プラス水準となっている。収益性DIは前回の 20.7 から 21.5 へやや好転し、資金繰りDIも前回の△3.4 から 3.6 へ改善している。7 月は一部で大型店開店による周辺への影響があった。自動車販売は、諏訪地方の 7 月の車庫証明件数(軽自動車除く)が 886 件で、前年同月比では 105 件減少(△10.6%)した。燃費データ不正問題などで軽自動車に対する買い控えは続いているが、底を打った感触を持つ企業がある。ただ、不信感のため、以前の水準には戻らないのではという見方もある。

観光・サービス業は、「前年同期」と比べた業況判断DIは 33.3(前回 37.5)、売上DIは 20.0(前回 25.0)で、前回調査時に続き、好転企業が多くなっている。今年は御柱祭後も観光客が多く、宿泊客数DIが 13.3 と前回の 0.0 から伸びている。また、収益性DIも 20.0 と、前回の 6.3 から好転している。梅雨明けが前年より遅く、高原の

観光地はやや苦戦したが、梅雨明け後は好調に推移した施設が多い。「3ヶ月後」の業況予想DIは季節要因などで、6.6と前回の18.7から悪化し、宿泊客数予想DIも△6.7で前回の25.0から悪化した。経営上の課題は、引き続き労働力確保がトップとなっているが、人件費の増加を挙げる企業が増えている。

建設業の業況判断DIは、「3ヶ月前」と比べて20.0で前回調査時の△40.0から大幅に改善した。「前年同期」比も0.0で前回の△40.0から改善した。ただ、「3ヶ月後」の業況予想DIは△6.6で前回の0.0から悪化している。受注状況DIは「3ヶ月前」比は6.7で前回の△33.4から改善した。「前年同期」比では△13.4で前回の△33.3より改善しているが、マイナス水準で、前年より悪化している企業が上回っている。「3ヶ月後」の予想は0.0で前回の△6.7から改善しているが、横ばいを予想する企業が多い。御柱祭時の停滞からようやく動き始めている。諏訪地方の平成28年6月の新設住宅着工戸数は103戸で、前年同月比19戸増加(22.6%)したが、平成28年4月～6月の累計着工戸数は290戸で、前年同期比28戸減少(△8.8%)している。平成28年7月に地元業者が受注した国県関係の公共工事は13件だった。また、市町村からの受注工事は、合計86件、956百万円で、前年同月比件数は7件増、契約金額は270百万円増加した。

雇用状況は、平成28年6月の諏訪地方の有効求人倍率が、前年同月を0.19ポイント上回り、前月を0.03ポイント上回る1.35倍となった。1倍台は27ヶ月連続。長野県は1.42倍で、全国は1.37倍だった。諏訪地方は、新規求人数(全数)が1,581人で前年同月比26人増加(1.7%)した。新規求職者数は759人で前年同月比101人減少(△11.7%)している。産業別の前年同月比の新規求人数は、運輸業で130.0%、飲食店・宿泊業で9.2%増加したが、生活関連サービス・娯楽業で28.3%減少した。求人の要因別では「継続する人員不足」「創業・新分野展開」が増加し、「業務量増大」「欠員補充」が減少した。1件10人以上の人員整理はなく、事業主都合による雇用保険資格喪失者は32人で、前年同月より1人減少し、前月より12人増加した。



業況判断DIの推移 「3ヶ月前と比較して」

回答全社(191社)の「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは、「好転」企業が22.5%、「横這」企業が61.3%、「悪化」企業が16.2%で6.3と、前回調査時の△3.0から9.3ポイント改善した。前回の3ヶ月後の予想DIの3.5を上回った。製造業は、「好転」企業が17.7%から15.8%へ減少し、「悪化」企業も19.9%から18.0%へ減少し、ほぼ横這い状態で推移した。これに対して、非製造業は、「好転」企業が前回の23.3%から37.9%へ増加し、「悪化」企業は28.3%から12.1%へ減少した。本格的な観光シーズンを迎えて好調な観光・サービスの業況判断DI53.4が全体を押し上げているほか、これまで低調に推移していた建設業が20.0(前回△40.0)とプラス水準となり、商業も前回の3.4から14.2と好転している。

産業別業況表

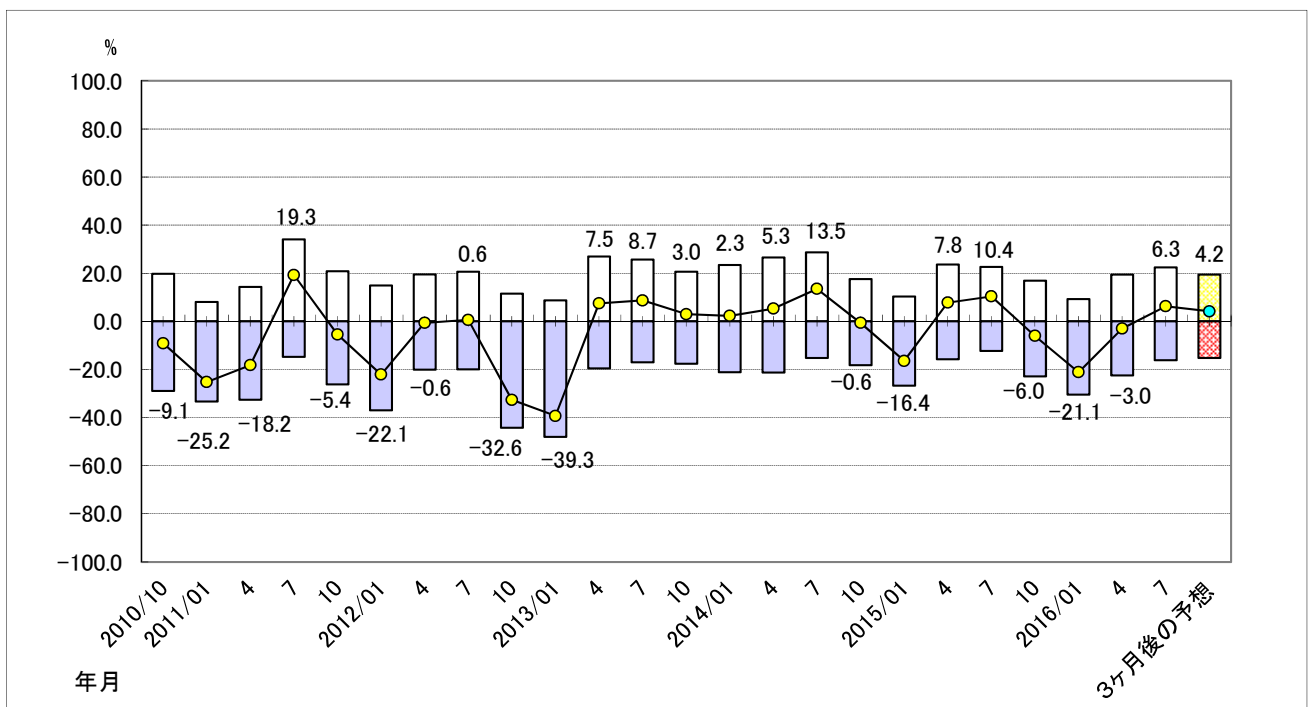
(企業数・%) 表-1

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
全体	191	22.5	61.3	16.2	6.3	191	20.4	47.1	32.5	-12.1	191	19.4	65.4	15.2	4.2
製造業	133	15.8	66.2	18.0	-2.2	133	15.8	48.1	36.1	-20.3	133	19.5	66.9	13.5	6.0
非製造業	58	37.9	50.0	12.1	25.8	58	31.0	44.8	24.1	6.9	58	19.0	62.1	19.0	0.0
商業	28	32.1	50.0	17.9	14.2	28	28.6	39.3	32.1	-3.5	28	17.9	64.3	17.9	0.0
建設業	15	20.0	80.0	0.0	20.0	15	13.3	73.3	13.3	0.0	15	6.7	80.0	13.3	-6.6
観光・サービス	15	66.7	20.0	13.3	53.4	15	53.3	26.7	20.0	33.3	15	33.3	40.0	26.7	6.6

自社業況判断DIの推移

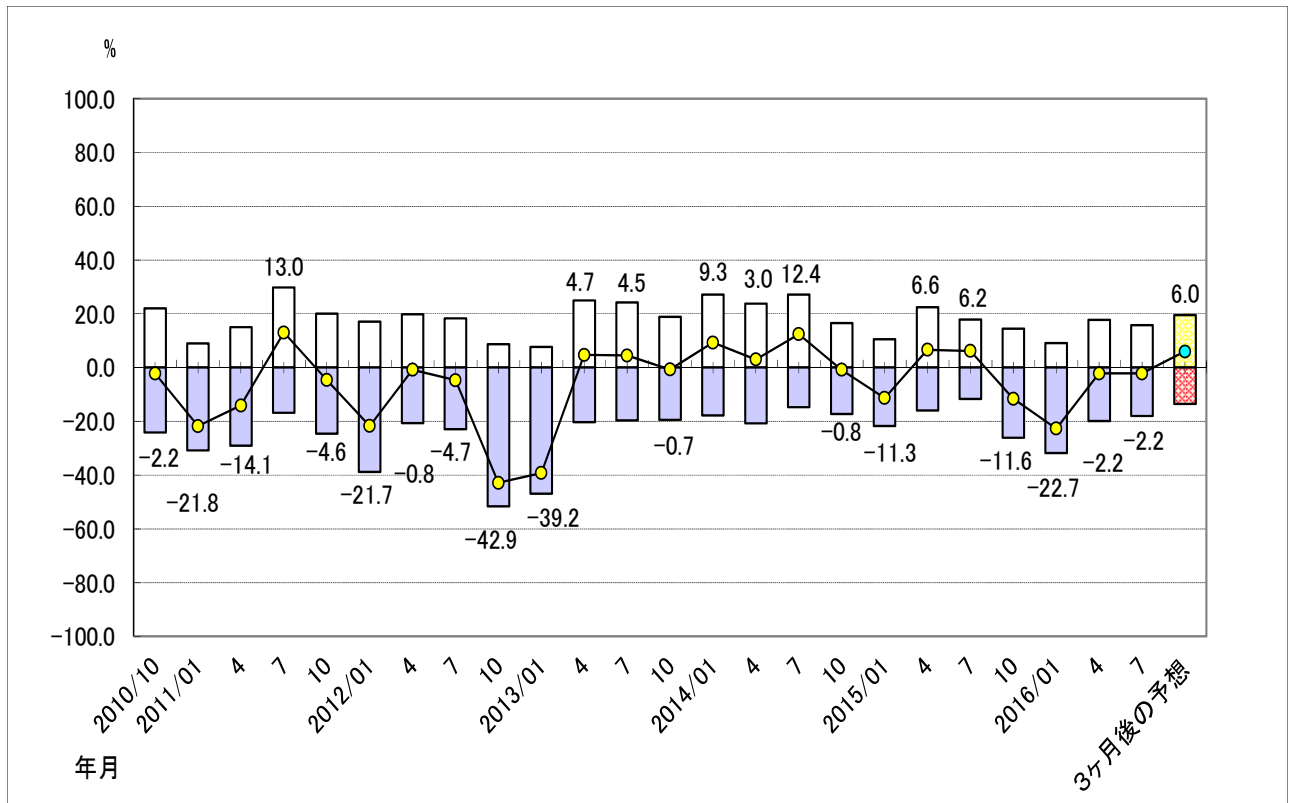
● 回答全社:「3ヶ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-1



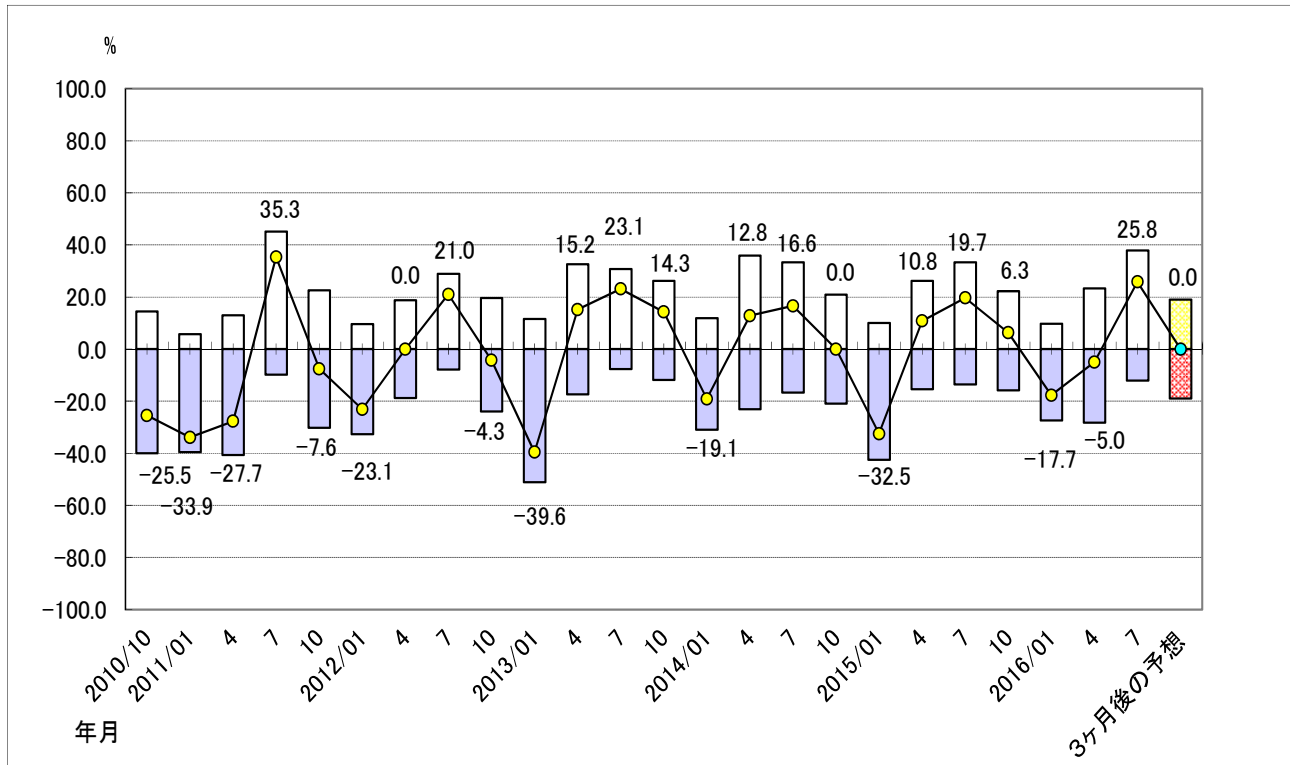
●製造業：「3ヶ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフー2



●非製造業：「3ヶ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフー3



産業別景気動向

1. 製造業

業況判断DIは、「3ヶ月前」比で△2.2と、前回調査時の△2.2と同水準で推移したが、「前年同期」比では△20.3で、前回の△7.8から12.5ポイント悪化した。「3ヶ月後」の予想は6.0で、前回の1.4から4.6ポイント改善した。

受注状況DIは、「3ヶ月前」と比べて△0.7で、前回の1.4から悪化した。「前年同期」比も前回の△8.5から△15.1へ悪化しているが、「3ヶ月後」の予想DIは6.1で前回の2.8から改善している。

収益性DIは、「3ヶ月前」比で△12.1と前回の△9.9から2.2ポイント悪化した。「前年同期」比では前回の△17.7から△17.3へと、わずかに0.4ポイント改善した。「3ヶ月後」の予想は△0.7で、前回の△3.5より2.8ポイント改善している。

電力や燃料などのエネルギーコストは3ヶ月前に比べて10.5%（前回14.9%）、前年同期比では19.5%（前回25.5%）の企業が低下している。3ヶ月後は88.0%（前回82.3%）が横這で推移するとみている。

英国EU離脱の影響は、3ヶ月前に比べて4.5%の企業で業況が悪化したと回答し、3ヶ月後は6.8%が悪化すると予想している。

業種別（主要5業種）の業況判断DIは、「3ヶ月前」と比べて「金属製品」が22.2（前回△5.0）、「電気機械」が△3.6（同△13.8）、「一般機械」は5.8（同△11.4）と改善し、「輸送用機械」は△12.5（同△6.2）、「精密機械」が△10.0（同0.0）で悪化した。

「前年同期」比では「精密機械」は10.0（同7.7）、「金属製品」が△5.5（同△15.0）と改善したが、「輸送用機械」が△25.0（同△0.0）、「一般機械」は△26.5（同2.8）、「電気機械」が△32.2（同△20.7）で悪化した。

「3ヶ月後」の予想DIは、「精密機械」が40.0（同△7.7）、「輸送用機械」は12.5（同△6.3）、「電気機械」が10.7（同△3.5）と改善し、「金属製品」は5.5（同20.0）、「一般機械」が△11.8（同△11.4）と悪化した。

製造業 業種別・規模別の自社業況表

表-2

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想					
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	
製造業	133	15.8	66.2	18.0	-2.2	133	15.8	48.1	36.1	-20.3	133	19.5	66.9	13.5	6.0	
規模	1～29人	72	11.1	68.1	20.8	-9.7	72	9.7	48.6	41.7	-32.0	72	13.9	72.2	13.9	0.0
	30～99人	43	23.3	58.1	18.6	4.7	43	30.2	44.2	25.6	4.6	43	23.3	60.5	16.3	7.0
	100人～	18	16.7	77.8	5.6	11.1	18	5.6	55.6	38.9	-33.3	18	33.3	61.1	5.6	27.7
分類	金属製品製造業	18	27.8	66.7	5.6	22.2	18	16.7	61.1	22.2	-5.5	18	22.2	61.1	16.7	5.5
	一般機械器具製造業	34	17.6	70.6	11.8	5.8	34	14.7	44.1	41.2	-26.5	34	8.8	70.6	20.6	-11.8
	電気機械器具製造業	28	14.3	67.9	17.9	-3.6	28	10.7	46.4	42.9	-32.2	28	25.0	60.7	14.3	10.7
	輸送用機械器具製造業	16	12.5	62.5	25.0	-12.5	16	12.5	50.0	37.5	-25.0	16	18.8	75.0	6.3	12.5
	精密機械器具製造業	10	20.0	50.0	30.0	-10.0	10	30.0	50.0	20.0	10.0	10	40.0	60.0	0.0	40.0

① 諏訪地方製造品出荷額の70%を占める中分類5業種の業況

● 金属製品(プレス、メッキ、熱処理など)

業況判断DIは、「3ヶ月前」と比べて22.2で、前回調査時の△5.0から大幅改善した。「前年同期」比も△5.5(前回△15.0)で改善しているが、「3ヶ月後」の予想は5.5(前回(20.0))と、前回より好転予想が少なくなっている。主力取引先からの受注減を他で補うなど、業界は全体的に受注の波が激しく、安定受注の確保が難しい。精度が高い加工の注文が増加傾向となっている。

● 一般機械(工作機械、専用機械、省力機械、検査機械など)

業況判断DIは「3ヶ月前」と比べて5.8で、前回の△11.4から改善した。ただ、「前年同期」比では△26.5で前回の2.8より大幅悪化している。「3ヶ月後」の予想は△11.8で、前回の△11.4とほぼ同水準の予想となっている。省力化、検査機、軽搬送機械などは好調だが、今後の受注計画はあるものの、具体的な数値が決まらないなど、先行きに不透明感を持つ企業が増えている。

● 電気機械(家電、パソコン、情報機器、電子デバイス、デジタルカメラなど)

業況判断DIは、「3ヶ月前」比で△3.6と、前回の△13.8より改善したが、「前年同期」比は△32.2で前回の△20.7から悪化幅が広がっている。ただ、「3ヶ月後」の予想は10.7で前回の△3.5から改善し、好転予想の企業が増えている。一部プリンターや携帯電話、半導体関連などで好調な企業があるが、取引先の動向に左右されている。新型iPhone関連による受注増は期待されている。

● 輸送用機械(自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など)

業況判断DIは「3ヶ月前」と比べて△12.5で、前回の△6.2から悪化した。「好転」企業が前回の18.8%から12.5%に減り、「悪化」企業は前回の25.0%と同じだった。「前年同期」比は△25.0で、前回の0.0から大幅悪化している。「3ヶ月後」の予想は12.5で、前回の△6.3から改善し、好転予想が多くなっている。国内の自動車生産低迷の中で、順調に推移していた企業の受注が、6月ごろから陰りが出る一方で、燃費データ不正問題で6月まで生産調整していたメーカーが7月から動き出し、受注が増加している企業がある。為替差損が大幅増加した企業もあり、変動によって利益が左右される円高の進行が懸念されている。

● 精密機械(時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など)

業況判断DIは「3ヶ月前」と比べて△10.0で、前回の0.0から悪化した。が、「前年同期比」では10.0(前回7.7)と回復しており、「3ヶ月後」の予想は40.0(前回△7.7)と好転予想の企業が多い。車載カメラや監視カメラ部品などは堅調に推移している企業が多い。国内メーカーからは高品質が要求されることから、技術力がある企業に受注が集まる傾向がある。対応が間に合わず、納期遅れが発生する企業もある。ただ、円高進行によるコストダウン要請もある。

② 規模別業況

業況判断DIは、「3ヶ月前」と比べて「1～29人」規模は前回の△12.3から△9.7へやや改善し、「30～99

人」規模は前回の 8.3 から 4.7 へ悪化、「100 人以上」規模は前回の 10.0 から 11.1 へ改善した。「前年同期」比は「1～29 人」規模が△32.0 で前回の△13.7 から悪化幅が広がり、「30～99 人」規模が 4.6 で前回の 0.0 から改善し、「100 人以上」規模は△33.3 で前回の△5.0 から大幅悪化している。「3 ヶ月後」の予想は、「1～29 人」規模が 0.0 で前回の△11.0 より改善し、「30～99 人」規模は 7.0 で前回の 14.6 から悪化し、「100 人以上」規模は 27.7 で前回の 15.0 より改善傾向となっている。

③受注状況DI(規模別、業種別)

製造業全社の「3 ヶ月前」と比べて受注状況DIは、「増加」企業 21.1%、「減少」企業 21.8%で△0.7 と、前回調査時の 1.4 から悪化している。「前年同期」比も△15.1 で前回の△8.5 から悪化した。一方、「3 ヶ月後」の予想は「増加」が「減少」を上回る 6.1 で、前回の 2.8 から改善している。

規模別の受注状況DIは、「3 ヶ月前」と比べて「1～29 人企業」は△2.8 で、前回の△5.5 から改善した。「30～99 人企業」は 0.0 で、前回の 12.5 から悪化し、「100 人以上企業」は 5.6 で前回の 0.0 から改善している。「前年同期」比では「1～29 人企業」が△26.4 で前回の△15.1 から悪化した。「30～99 人企業」は 6.9 で前回の△4.2 から改善したが、「100 人以上企業」は△22.2 で前回の 5.0 から大幅悪化した。「3 ヶ月後」の予想は「1～29 人企業」が△1.3 で前回の△12.3 から改善し、「30～99 人企業」は前回の 16.7 から 7.0 へ悪化した。「100 人以上企業」は 33.3 で前回の 25.0 から改善予想幅が広がっている。

業種別(主要 5 業種)の「3 ヶ月前」比は、「金属製品」が前回の△5.0 から 27.7 と改善傾向が進み、「一般機械」も△11.4 から△2.9 へ改善しているが、「精密機械」は前回の 15.4 から△20.0 と大幅悪化し、「輸送用機械」も 6.2 から 0.0 へ悪化した。「電気機械」は△10.4 から△10.7 と同水準で推移した。「前年同期」比は、「金属製品」が△15.0 から 5.5、「精密機械」は 7.7 から 10.0、「電気機械」は△31.0 から△28.6 へと改善したが、「一般機械」は 0.0 から△26.4、へ悪化した。「輸送用機械」は△6.2 から△6.3 とほぼ同水準だった。「3 ヶ月後」の予想は、「精密機械」が前回の 7.7 から 40.0、「輸送用機械」は△6.2 から 0.0、「一般機械」は△11.5 から 3.0 へ改善したが、「金属製品」は 20.0 から 11.1、「電気機械」は 10.4 から 0.0 へ悪化した。

業種別・規模別受注状況表

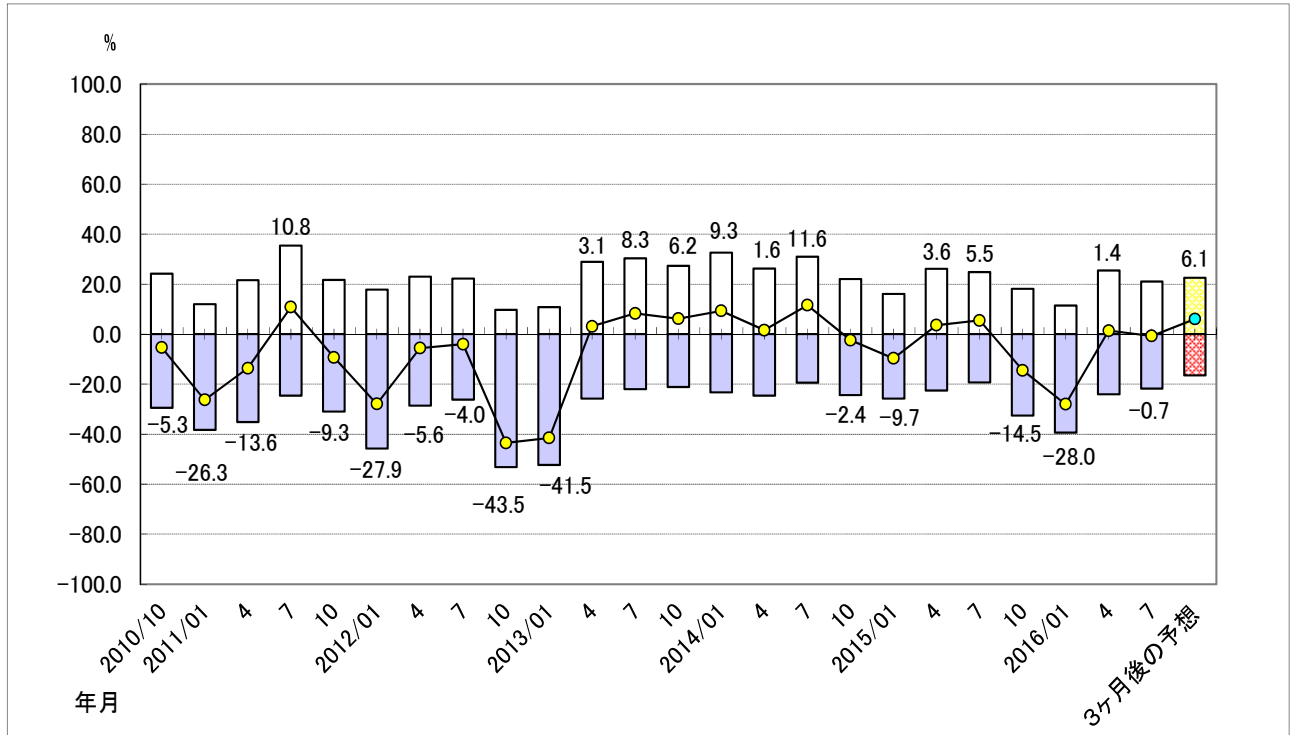
表-3

		3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
		回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI
製造業		133	21.1	57.1	21.8	-0.7	133	18.0	48.9	33.1	-15.1	133	22.6	60.9	16.5	6.1
規模	1～29人	72	19.4	58.3	22.2	-2.8	72	12.5	48.6	38.9	-26.4	72	18.1	62.5	19.4	-1.3
	30～99人	43	25.6	48.8	25.6	0.0	43	30.2	46.5	23.3	6.9	43	23.3	60.5	16.3	7.0
	100人～	18	16.7	72.2	11.1	5.6	18	11.1	55.6	33.3	-22.2	18	38.9	55.6	5.6	33.3
中分類	金属製品製造業	18	33.3	61.1	5.6	27.7	18	22.2	61.1	16.7	5.5	18	22.2	66.7	11.1	11.1
	一般機械器具製造業	34	17.6	67.6	14.7	2.9	34	11.8	50.0	38.2	-26.4	34	20.6	61.8	17.6	3.0
	電気機械器具製造業	28	21.4	46.4	32.1	-10.7	28	14.3	42.9	42.9	-28.6	28	25.0	50.0	25.0	0.0
	輸送用機械器具製造業	16	18.8	62.5	18.8	0.0	16	25.0	43.8	31.3	-6.3	16	18.8	62.5	18.8	0.0
	精密機械器具製造業	10	20.0	40.0	40.0	-20.0	10	30.0	50.0	20.0	10.0	10	40.0	60.0	0.0	40.0

製造業の受注状況DIの推移

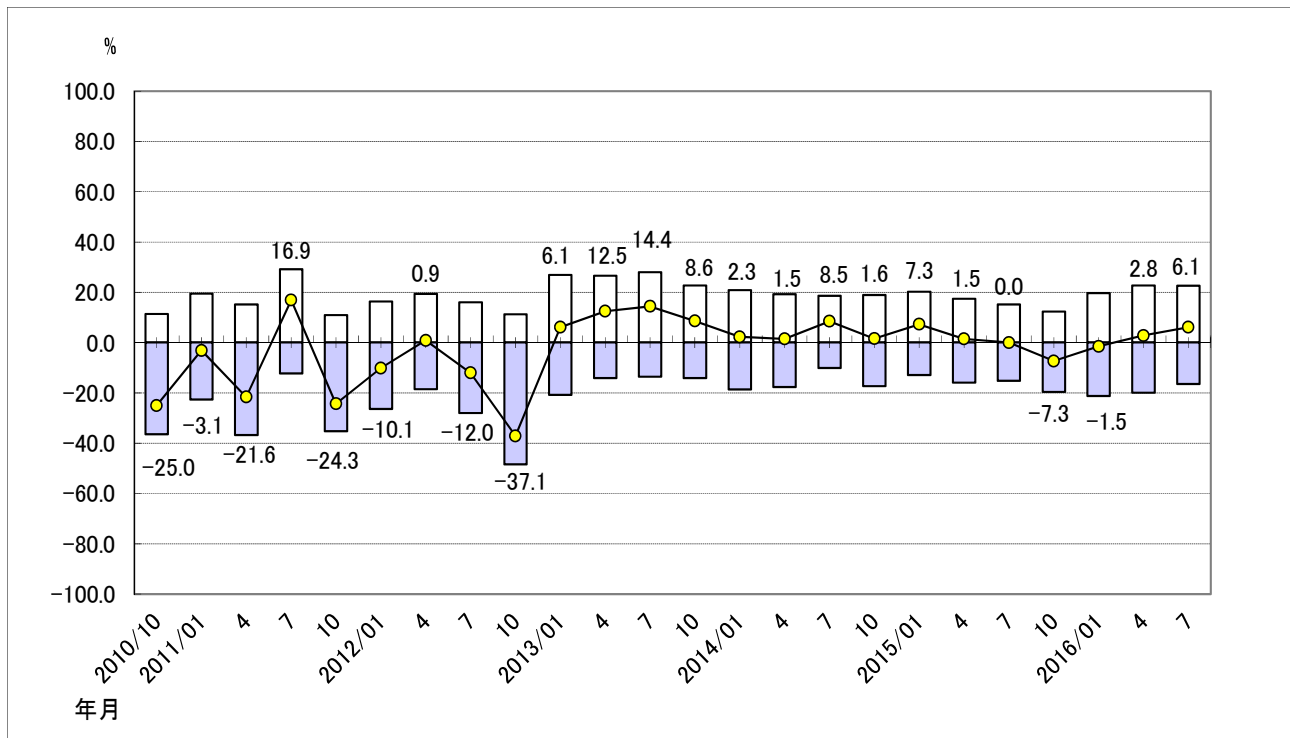
●製造業全社:「3ヶ月前」と比べた受注状況DIの推移

グラフー4



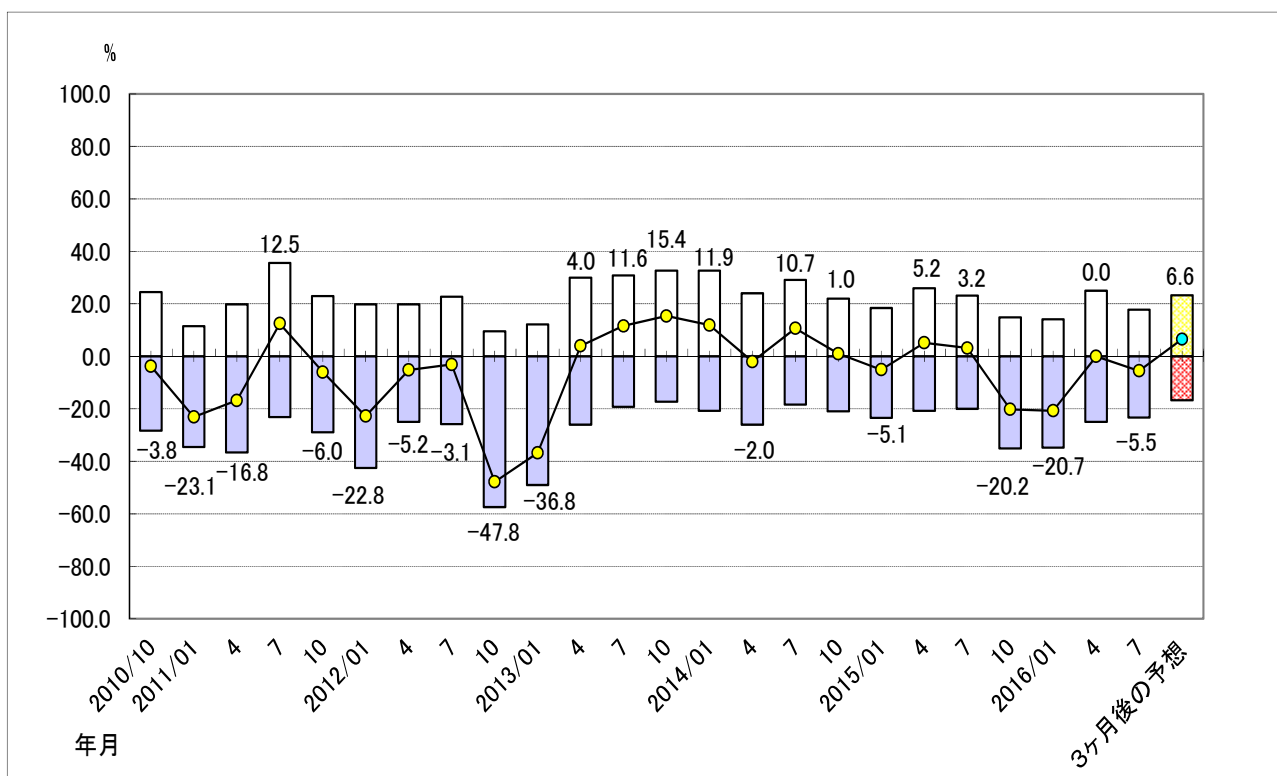
●製造業全社:「3ヶ月後」の受注予想DIの推移

グラフー5



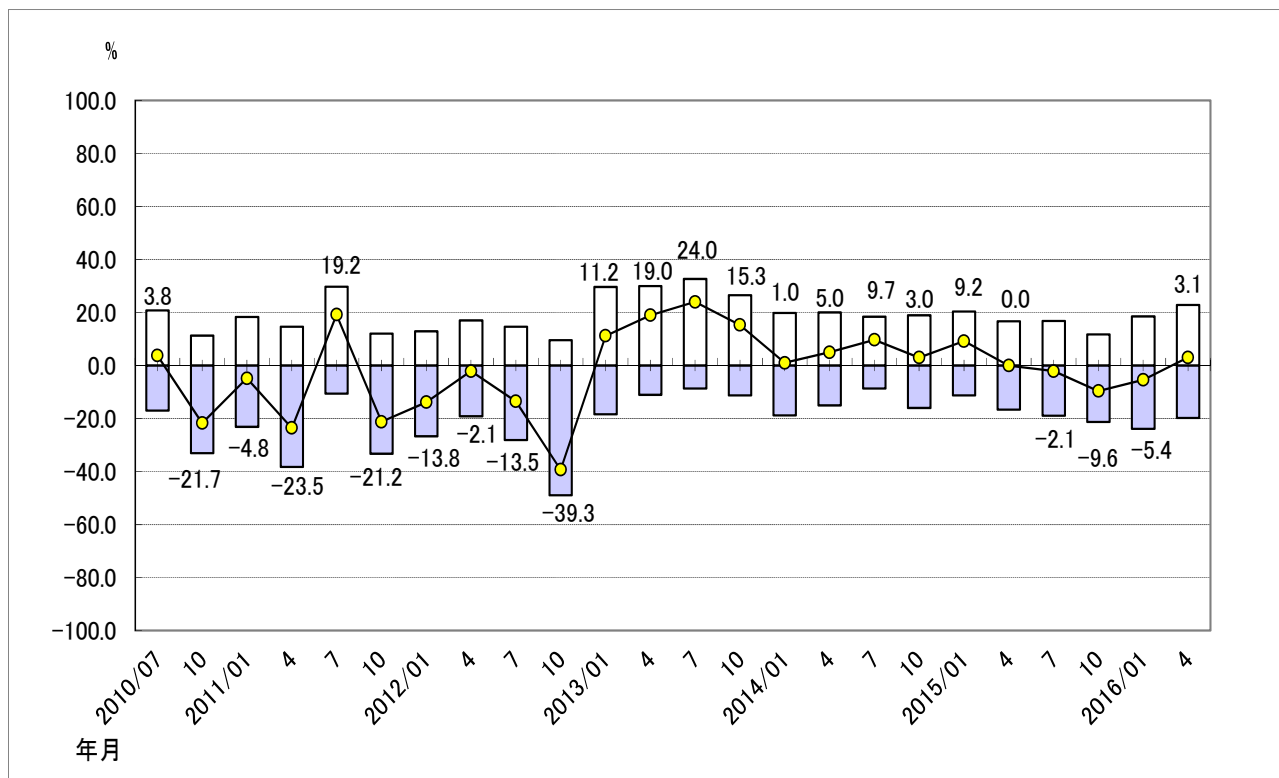
●製造業 主要5業種:「3ヶ月前」と比べた受注状況DIの推移

グラフー6



●製造業 主要5業種:「3ヶ月後」の受注予想DIの推移

グラフー7



2.商業・観光サービス業

①商業

「前年同期」に比べて、業況判断DIは△3.5と前回の3.4から悪化した。来店客数DIは△10.7と前回の△13.8から改善した。一方、「3ヶ月後」は、業況予想DIが0.0で前回の6.9から悪化し、収益性予想DIも7.1で、前回の13.8から悪化予想の企業が増えている。来客予想DIも△10.7で、見方が分かれていた前回の0.0から悪化した。消費者には、価格に対する満足度で小売店を選別する傾向がある。

- 食料品 精肉関係は値上がりが続き、鮮魚も天然、近海物が品薄で価格は高止まりした。
- 衣料品 梅雨明けが前年より遅く夏物衣料に影響があった。リオ五輪関連は低調だが、本番での日本選手のプレーや成績によって、ウェア等への関心が高まることが期待されている。
- 自動車 長野県内の7月の新車新規登録・届出台数は登録車が4,834台で2ヶ月連続減少し、軽自動車は3,529台で19ヶ月連続減少した。全体では11ヶ月連続で減少した。
- 家電店 冷蔵庫や洗濯機などの主要白物家電は省エネ性能の優れた製品に動きがあり、エアコンも好調に推移した。
- ホームセンター アイス枕など保冷消耗品が動き、草の伸びが良いため除草剤や草刈り機も好調だった。

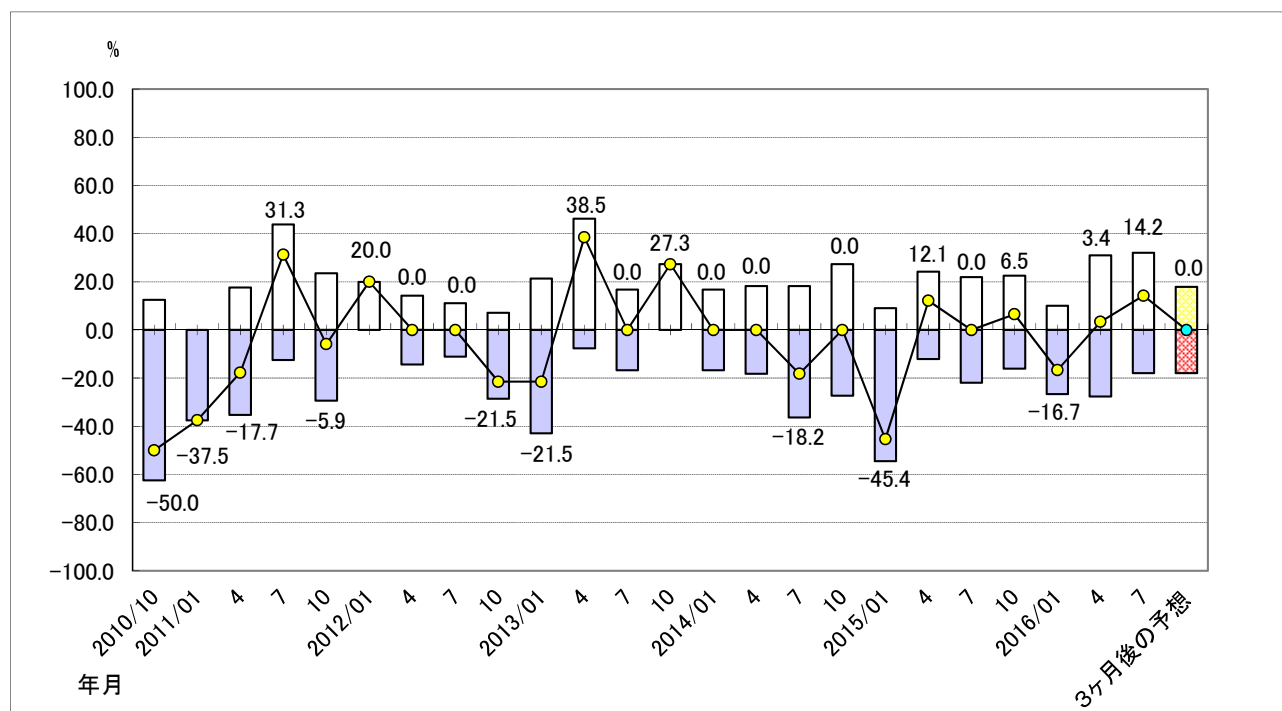
業況、客単価、来店客数

表-4

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	28	32.1	50.0	17.9	14.2	28	28.6	39.3	32.1	-3.5	28	17.9	64.3	17.9	0.0
客単価	28	10.7	82.1	7.1	3.6	28	7.1	82.1	10.7	-3.6	28	14.3	67.9	17.9	-3.6
来店客数	28	21.4	60.7	17.9	3.5	28	14.3	60.7	25.0	-10.7	28	10.7	67.9	21.4	-10.7

●商業全社：「3ヶ月前」と比べて業況判断DIの推移

グラフ-8



②観光・サービス業

「前年同期」比で、宿泊客数DIは 13.3 で「好転」が「悪化」を上回っている。客単価DIも 20.0(前回 18.8)で前回同様プラス水準の動きとなっている。「3ヶ月後」は、宿泊客数予想DIが△6.7と前回の 25.0 から悪化し、業況予想DIは 6.6 と前回の 18.7 から悪化した。諏訪湖周辺では御柱祭などの影響で諏訪大社を中心とした観光客が多かった。一方、高原の観光地は天候の影響を受け、学校のキャンプや夏合宿の入り込みなどが施設によってまちまちだった。

- 上諏訪温泉 7月の宿泊客数は前年同月を上回った施設が多い。2～4人の個人客のほか、30人以上の国内団体客が前年を上回った。施設別では90%～120%台。一方、インバウンドは前年同月比減少。台湾は個人旅行者が増えている。方面別では関越、東京、東海が多い。
- 蓼科・白樺湖・車山方面ほか 梅雨明けが前年より遅く、客足は伸び悩んだ。登山客も比較的少ない。富士見方面では山野草やバイクイベントなどに人が集まった。
- 諏訪大社 上社・下社合わせた7月の参拝者数は約6万7千人で、前年同月比約2万4千人の増加(56.6%)となった。

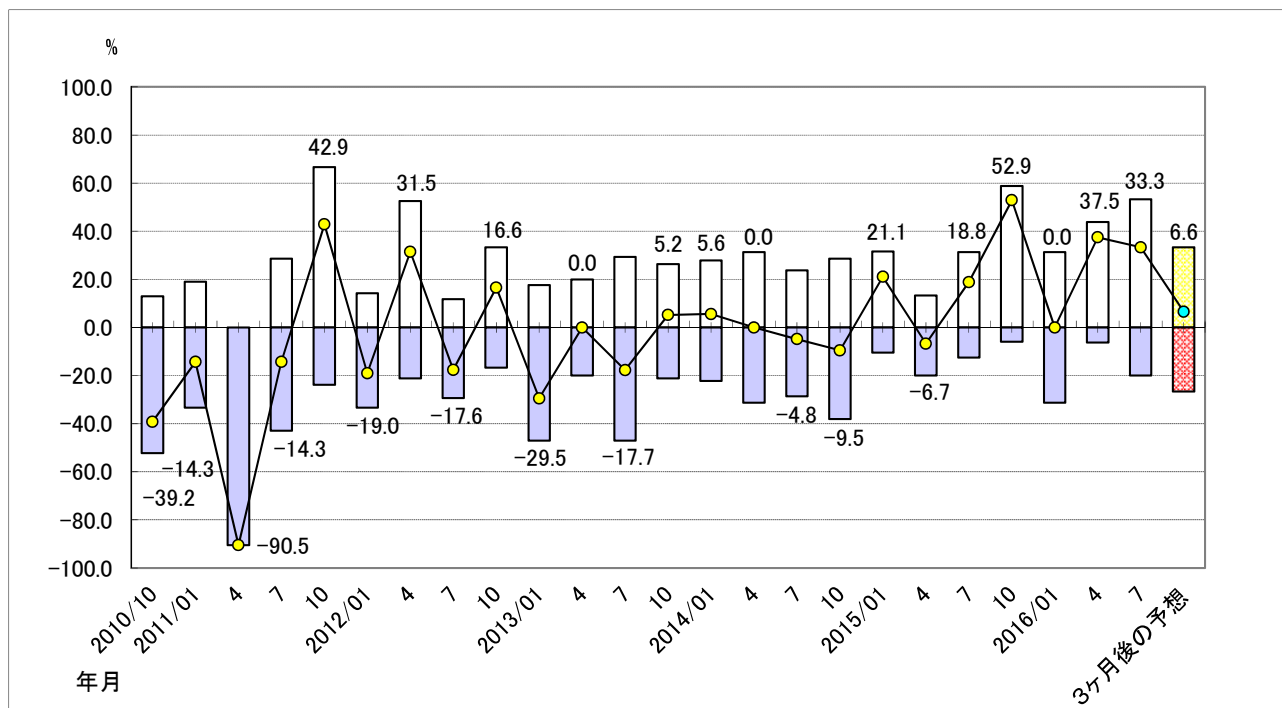
業況、売上、宿泊客

表-5

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	15	66.7	20.0	13.3	53.4	15	53.3	26.7	20.0	33.3	15	33.3	40.0	26.7	6.6
客単価	15	26.7	66.7	6.7	20.0	15	26.7	66.7	6.7	20.0	15	13.3	73.3	13.3	0.0
宿泊客数	15	66.7	20.0	13.3	53.4	15	40.0	33.3	26.7	13.3	15	20.0	53.3	26.7	-6.7

●観光・サービス業全社:「前年同期」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-9



3.建設業

御柱祭の影響を強く受けていた3ヶ月前は好転企業がなかったが、今回は多くの企業が横這い状況ではあるものの、20%の企業が好転した。収益性DIの「3ヶ月前」比も $\Delta 20.0$ で前回の $\Delta 33.3$ から改善している。ただ、3ヶ月後の業況予想DIは再び「悪化」予想が上回る $\Delta 6.6$ で、前回の0.0より悪化している。競争が激化する中で、人件費の増加を課題とする企業が増加している。

●建築工事

諏訪地方の平成28年6月の各市町村の新設住宅着工戸数は岡谷市28戸、諏訪市29戸、茅野市33戸、諏訪郡13戸の合計103戸だった。長野県全体の6月の新設住宅着工戸数は1,020戸で、前年同月比5.3%減少した。持家や貸家が減少する一方で、分譲は9ヶ月連続増加している。

●公共工事

平成28年7月に地元業者が受注した国県関係の公共工事は13件、813百万円だった。市町村からの7月の受注工事は前年同月比で、件数は7件増加し、契約金額は270百万円増加(39.4%)した。

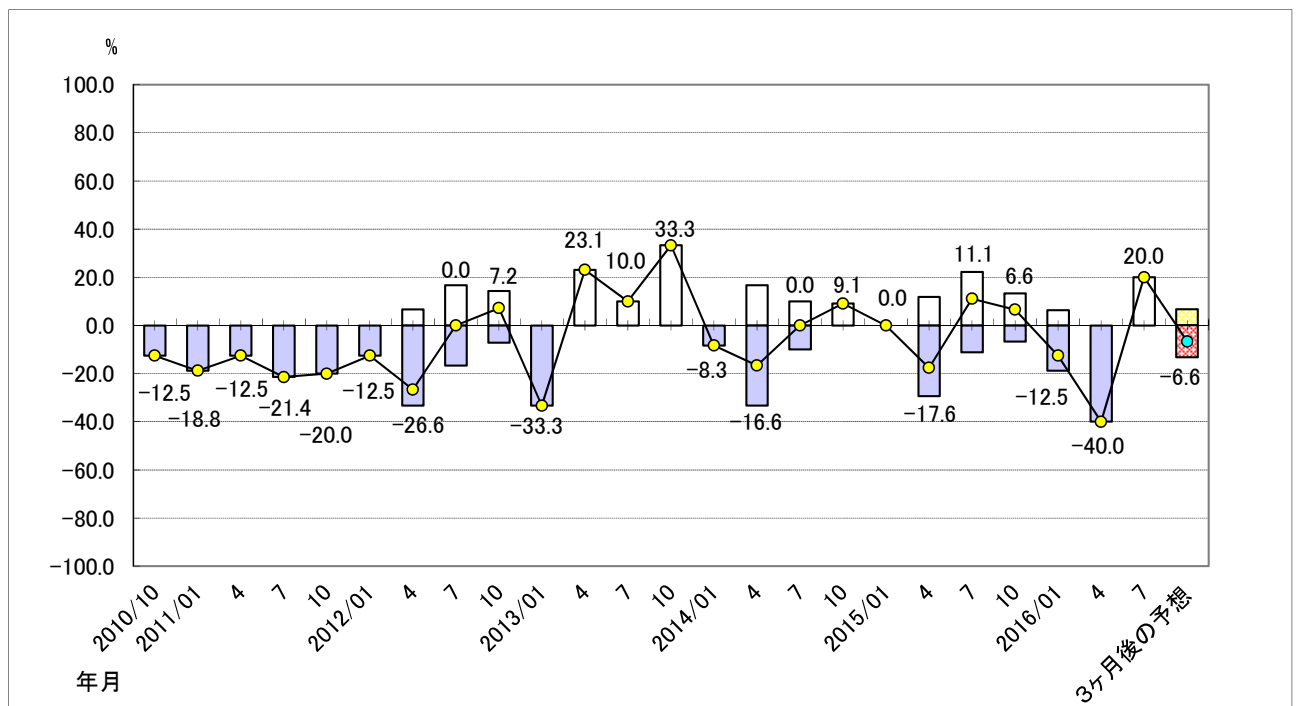
業況、受注状況、外注発注量

表-6

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	15	20.0	80.0	0.0	20.0	15	13.3	73.3	13.3	0.0	15	6.7	80.0	13.3	-6.6
受注状況	15	20.0	66.7	13.3	6.7	15	13.3	60.0	26.7	-13.4	15	13.3	73.3	13.3	0.0
外注発注量	15	13.3	73.3	13.3	0.0	15	13.3	46.7	40.0	-26.7	15	13.3	60.0	26.7	-13.4

●建設業全社:「3ヶ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-10



4.収益性状況

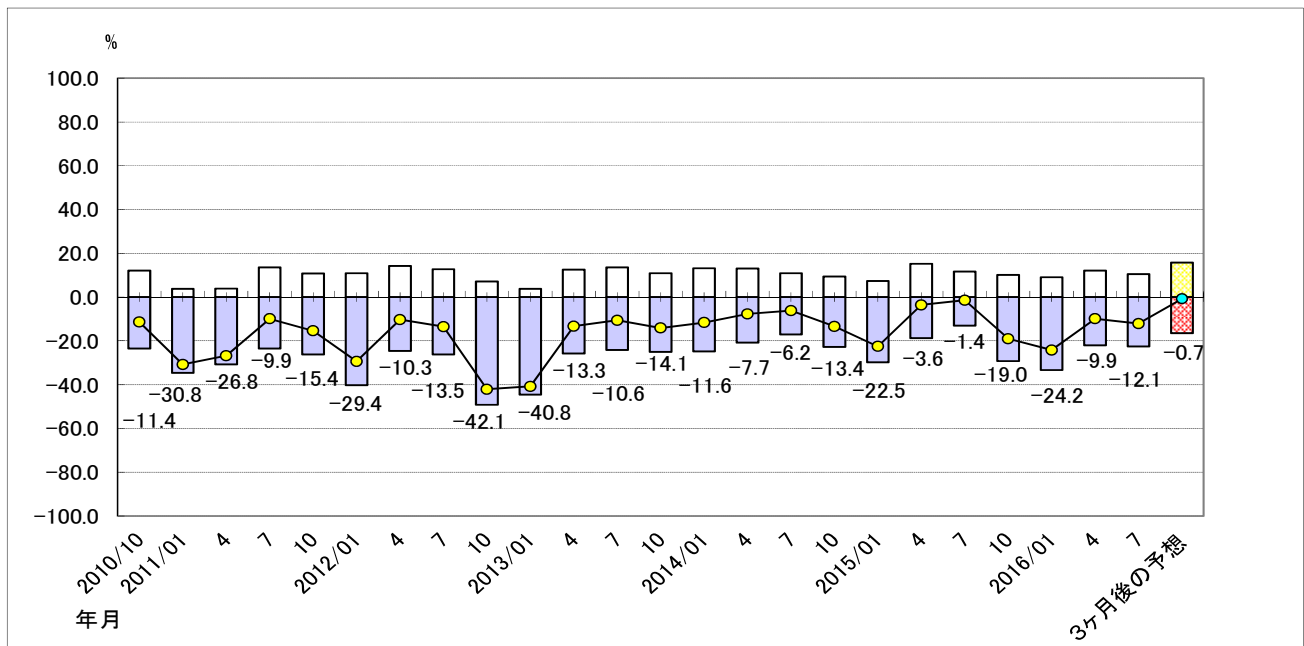
回答全社の「3ヶ月前」と比べた収益性は「好転」企業 15.7%、「悪化」企業 19.9%で、同DIは $\Delta 4.2$ と前回調査時の $\Delta 7.0$ からやや改善した。「前年同期」比も $\Delta 9.5$ で、前回の $\Delta 11.5$ よりやや改善した。

「3ヶ月前」と比べた製造業は $\Delta 12.1$ で前回の $\Delta 9.9$ から 2.2 ポイント悪化し、非製造業は 13.8 で前回の 0.0 から改善している。

「3ヶ月後」の予想DIは、製造業が $\Delta 0.7$ で前回の $\Delta 3.5$ から 2.8 ポイント改善し、非製造業は 0.0 で前回の 11.6 より悪化している。回答全社では $\Delta 0.6$ で、前回の 1.0 から悪化している。

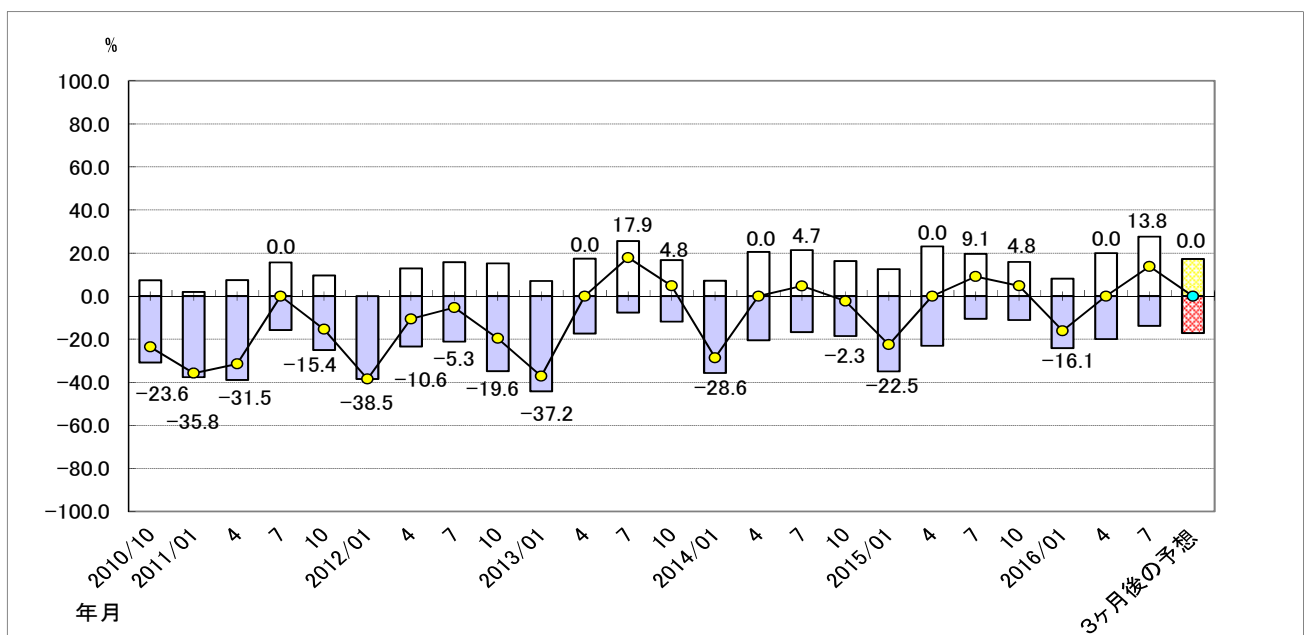
●製造業:3ヶ月前と比べた収益性DI

グラフー11



●非製造業:3ヶ月前と比べた収益性DI

グラフー12



5.経営上の課題

経営上の課題として①製造業は、売上減少と労働力確保②商業は労働力確保と競争激化③建設業は、競争激化と人件費④観光・サービス業は労働力確保と人件費となっている。

経営上の課題	合計	製造業	商業	建設業	観光・サービス業
売上減少	77	56	11	5	5
単価引下げ	37	29	5	1	2
競争激化	51	28	12	8	3
資金繰り	40	29	3	4	4
人件費	43	27	4	6	6
労働力確保	74	47	14	5	8

6.諏訪地方主要経済指標

主要指標		実数	前年同期比	
有効求人倍率【6月】	ハローワーク諏訪	1.35倍	0.19ポイント	
手形交換高【7月】 (諏訪手形交換所扱)	枚数	4,250枚	△1,648枚	
	金額	5,444百万円	△2,336百万円	
	うち不渡り発生状況	枚数	6枚	6枚
	金額	23,528千円	23,528千円	
電力使用量【7月】 (中電諏訪営業所管内)	電灯電力計	39,144 MWh	4.7%	
	高压電力計	90,908 MWh	△3.0%	
	合計	130,052 MWh	△0.8%	
車庫証明取扱件数【7月】(諏訪地方合計)		886件	△10.6%	
新設住宅着工戸数【平成28年4～6月】(諏訪管内)		290戸	△8.8%	

7.調査概要

DI調査:業況が「好転」と答えた企業割合から「悪化」と答えた企業割合を引いた数値。

- ① 調査期間 平成28年7月末。
- ② 調査内容 「平成28年7月末」の実績と、「3ヶ月前」と「前年同期」の業績比較及び「3ヶ月後」の予想。
- ③ 調査方法 アンケート調査(回答数 下記⑦)及びヒアリング調査(約130社)。
- ④ 対象地域 諏訪地域全域。
- ⑤ 業種 製造業、商業、建設業、観光・サービス業。
- ⑥ 回答企業数 191企業。
- ⑦ 回答率 76.4%

	製造業	商業	建設業	観光・サービス業	合計
依頼数	170	40	20	20	250
回答数	133	28	15	15	191